

みやぎの地域共生社会の実現を目指して

令和7年度 第1回 宮城県地域共生社会推進会議を開催しました



令和7年8月26日に開催した宮城県地域共生社会推進会議は、令和4年2月に宮城県と本会が共同で立ち上げたプラットフォームで、7回目の開催となりました。

今回は、県内の取組事例の紹介を通じて、地域共生社会の実現に向けて理解を深めることを目的にオンラインにより開催しました。

基調講演

地域共生社会の実現に向けた
様々な主体との連携
～居場所づくりの実践から～

●宮城県児童館・放課後児童クラブ
連絡協議会
副会長 荒木 裕美 氏

【主な発表内容】



自身の経験から、子育ては家庭や当事者同士の支え合いだけでは限界があり、

地域とつながることの大切さを感じました。見つけてもらえるのを待つのではなく、自ら手を挙げて動く必要があると思います、NPO法人を立ち上げました。

様々な取組を通じて、地域における顔の見えるつながりづくりや子育て世代が安心して過ごせる居場所づくりを行うことで、妊娠期から18歳未満の子どもを育てる世代まで切れ目なく寄り添う活動を行っています。また、無償のボランティアで行う家庭訪問型の子育て支援などの取組を行うことで、支え合える人を増やし、既存の制度では対応しきれない制度の隙間を埋めることにもつながっています。

事例報告

様々な主体が連携している
取組

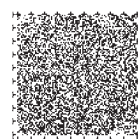
●みさとつこマーケット実行委員会
代表 桜井 志朗 氏

【主な発表内容】



令和4年から美里町で誰もが主役になれるイベントの「みさとつこマーケット」を行っており、町内の店舗を中心としたブースの出店や宮城県小牛田農

地域共生社会を進めていくにあたり、子ども自身も社会に参加する主体であり、「町を良くしたい」という思いを持っています。そのため、子どもたちも地域づくりの仲間に入れてほしいと思っています。今後はこれまでの制度などでつなげていかなかったものをまぜこぜにし、子どもから大人まで安心して暮らせる居場所をつくり、そのような場所を活用して機運の醸成につなげていきたいと考えています。



総評

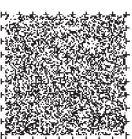
●宮城県児童館・放課後児童クラブ
連絡協議会
副会長 荒木 裕美 氏

今回の事例報告を通じて、様々な主体とのつながり方を知ることができ、活動へのヒントになったと思います。どの発表にも共通していた「連携」という言葉は、一般的に横につながるイメージがありますが、発表を聞いていると横につながることで、将来につながる縦軸も見えたように感じました。また、直接会うことも大事なことです。情報が共有することで、直接会えなくても気に掛けあうことができるとあり、それだけ情報には力があると思いました。人とつながり、共有することの大切さを再認識する機会になりました。

協議会の設置により、民間団体を含めた構成員間で個人情報共有が可能となり、これまで埋もれがちだった気になる人に関する情報についても、消費生活センターに情報が寄せられるようになったことで、消費者被害の早期発見が可能となりました。

消費者被害の未然防止や早期発見に向けた取組は、地域での見守りが重要です。消費者被害にかかわらず気になることがあれば、行政や各窓口につながるなど、若い世代にも地域の見守りをもっと広めていきたいと考えています。

今後も市民が、安全に、安心して生活できる地域を目指してまいります。



林高等学校吹奏楽部による演奏、キッズ向けハロウィンウォークラリーなどを行っています。この取組は、4年前に美里町に移住してきた2人の女性が「美里町の人はなぜこんなに自分の町に自信がないんだろう」と思ったことがきっかけで始まり、美里町の魅力をたくさん知ることができる「美里町のテーマパーク」にすることをコンセプトに毎年開催しています。

地域に埋もれている人材を発掘、紹介できる場であり、参加者や出店者同士の出会いの場となることで、新たな挑戦につながっています。小学生から高校生までのボランティアが企画から関わることで、社会体験の場にもなっています。

今後もこの取組を通じて、美里町の子どもも大人も地域を知り、地元に誇りを持てるような取組を目指していきたいと考えています。

●一般社団法人フリースペースつなぎ
代表理事 中村 みちよ 氏

【主な発表内容】
気仙沼市で学校に行けなくなった子どもやひきこもりがちな若者たちの居場所づくりをしたいと思い、平成25年に「フリースペースつなぎ」を始めま

●大崎市民生部社会福祉課
生活相談担当兼消費生活センター
主幹兼係長 小野松 恵利子 氏

【主な発表内容】
大崎市消費者安全確保地域協議会